常磐毎日新聞

夕刊　八月九日

日刊

常磐毎日新聞社

常磐毎日印刷株式會社

電話　六三〇番

小兒科內科
酒井醫院
◉入院隨意（電話五五）
醫學博士酒井保
平市字南町

驚く勿れ!!一ケ月に十二萬五千圓が煙り

▽……それでも前月よりは約一萬圓少い

バカにならぬ煙草代

煙草專賣局平出張所における七月中の總賣上げ高は十二萬四千九十九圓四十三錢の巨額に達し前年同期に比べ二萬九千七百八十圓六十六錢の增を示してゐるが前月の六月に比較するときは十三萬三千三十六圓二十二錢の減で自肅節煙が叫ばれてゐる折柄まことに喜ばしい現象だとみらるも一ケ月の煙代十二萬五千圓とあつてはまだ〳〵の感が深い譯だ

尚賣れ高は依然としてバットが王座をしめ總賣上げの四割で他の卷煙草、キザミ各二割といふ順序である

泉村の廢品

泉村ではこの程無駄を省き廢品を活かせと村役場及國防婦人分會共同主催で小學校に銃後生活改善講話並に實習指導會を開催、東京新興生活館理事水野常吉氏の講話に次いで白木トネさんが廢物の布切を利用して足袋、靴下、下駄の鼻緒等をつくることを指導したが出席者頗る多く盛會を極めた

奉公會寄附

玉川村富岡出身清水滑君はこの程第一線から村の銃後奉公會に金十圓を寄せて來た

磐中校長歡送迎會

磐中の淺水、山森校長の歡送迎會は八月十日午後六時から谷口樓で宵沼銖太郎、野崎萬藏、正木貞二郎、服部甲、立花幸吉清水廣政、吉田金作、坂本一良氏發起の下に開かれる會費は金四圓

日の丸劇團が……けふ市會で問題

平市會は本九日午前十一時から開會既報諸案を審議したが大瀧發電所其他の協議題に移る前に先般平市に公演された日の丸劇團が問題となつて野崎議長は遂に正午休憩を宣し午後一時から再會する事となつた

貯金額增加著し

力強い意識が反映

平郵便局における貯金額は銃後下地方民の力強い意識が反映毎月著しく增加してゐるが七月中の純增加額は一七五五〇人の三十二萬八千五百十二圓といふ近來にない好成績を示し關係者を感激せしめてゐる、尚既往三ケ年の七月中の增加額は左の如く今年度四、五、六、七月の增加合計は七十八萬二千圓の巨額に達してゐるといふ

△十二年八、一三三人　二、〇九二圓
△十三年一一、九五〇人　五二、三三五圓
△十四年一四、七九八人　九三、二〇五圓

縣下藝妓屋自肅自戒の決議

昨日平市公會堂に參集

既報本縣の藝妓屋組合の第四回總會は昨八日午後一時より平市公會堂に開催、平藝妓屋組合長國府田直良氏座長席に着き左の宣言決議を

宣言

聖戰既に四年東亞新秩序建設の聖業着々其歩を進めつゝありと雖も變轉極りなき國際の情勢は世界史上に畫明的一大革新を描かんとするの重大時局に直面し吾人業者は玆に輝やく皇紀二千六百年の意義深き年を迎へ一層其認識を新たにし結束を強化し、自肅自戒以て奉公の赤誠を披瀝し萬難を排して國威の發揚と國策の遂行に一路協力邁進せんことを期す

昭和十五年八月八日

福島縣藝妓屋聯合會

決議

一、物資愛護は戰時經濟の要諦なり不自由なる生活は思ひを第一線に於ける將兵の勞苦に馳せて一粒の糧一滴の油と雖も之れを濫費することなく產業の振興を助けて外貨獲得に協力すること

二、戰時體制下に營業秩序ある統制に從はざる可からず吾々業者は常に國家總力戰に參加し居るの精神を忘れず國策の向ふ所に從ひ能く其秩序を維持し苟も其制度を紊し社會の非難を受るが如きことなき樣戒むること

三、体位の向上は國家興隆の源泉なり歐洲の戰亂に於て獨逸今日の躍進は科學の力と相俟つて体力の增進に努めたる結果に外ならず故に吾々業者は常に攝生に留意し若老を問はず男女を論ぜず積極的に体位向上の良策を考究すること

を行つて各組合提出の案件を附議宵沼平市長其他の祝辭あつて平藝妓の手踊りが余興に演ぜられた

常陽の引繼

常陽銀行平支店新店長寺內定藏氏は十一日單身着任中山前支店長と事務引繼をなすことになつてゐる

青年團幹部現地訓練隊

第一回通信

平市中町出身　增尾孝介

午前三時起床、直に出發、一路一文字山向け隊を整ひ勵々と廣安門通過廣安門は昭和十三年七月二十六日櫻井大佐と川村通譯官とか軍使として入城し突如發破され櫻井部隊長は負傷、川村通譯官は戰死、思ひ出深き廣安門、感慨無量の門なり、此の門は午前七時にならないと門が開かないさうです、我が青年團幹部現地訓練行は特別の時間外でも通過出來きます、門を通過すると六時前から宛平方面から野菜を積んだ車が列を作つて列んで居ます、事變當時は石の道路で今はペイフストリートになつて兩側石がごろついて居ます、午後九時十五分到着致しました日支事變發端地である一文字山と云ふのは一寸した丘の樣なものでありまず、此の附近を公園にされ準備中です、尚一帶は理想的文化都市を創る計畫だそうです、其の入口の所に一軒の老婆の店が日本軍の手に依つて營んで居ます、この老婆は事變の時老爺と共に日本軍に水を與へたそうです、新民會の說明を受けました、三十分にて宛平城通過、日本軍に破壞された狀況が具に見うけられます、漸くして盧溝橋に到着致しました、盧溝橋事件——。

支那は西安事變以來國共合休は有力な民族統一戰交へた形成し救亡の大道に進んだのであつた、突然我が日本駐屯軍に攻擊し來たつたもので演習中止となつたのである。思ひ出深い橋であり、此の橋は日本では鎌倉時代に出來たそうです、マルコポーロが作つたそうです、〇用トラックにて南郊村新民會模範村に行き志岐と云ふ人が事變直後此處に入つて宣撫に全力を盡し危機をおかして現在の理想村を作つたのである、午後三時頃晝食を御馳走になり、支那食初めて食べました、この食は腹がへつて居るので無我無中で食べました、五時三十分出發、六時三十分廣安門到着、川村通譯官の墓に額づきまして五分間の默禱し後小休止になり城門の下を見ればラクダの連がのこりのこりと歩いて歸つて行く狀況を見る時大國の一端をよくあらはして居る事でせう、隊を整ひ勵くに行進、〇〇部隊長の檢閱を受け只々感激のみ、愛國行進市中の支那人が見た時何んと思ふでせう、日本の偉大なる皇軍の有難さを痛切に感じ青年の意氣を遺憾無く發揮したのでありました、十時宿舍に歸りました、大陸では九時頃夕日が西の方に傾き眞赤な夕日は內地には到底見られ無いのであります、愈々二十三日〇〇方面の第一線に出發します。（簡單に記す）

小名濱支局通信

時局認識に一大拍車

支局長　小野務平

▽盂蘭盆祭典から町當局と寺院の自制▽

世の推移から眺めて日常生活の上に改善せねばならぬ行事が右にも左にも重疊して居る、其舊弊を急速に改善する事は種々の障害を生ずる事ゝ絕無ではないが或る機會を捉へて之を改善決行するの時宜に適した惡弊打開は萬人の仰止する社會改善の第一歩である事に異論はない。

小名濱町當局は舊盆の近けるに當り盂蘭盆會執行上に各寺院と打合せ協議を練つて時代の流れに一の動かざる目標を明かにした事は何と云ふても小名濱町の誇りでなくてはならぬ、盂蘭盆會は佛法による梵語から來たもので是れを國釋すると倒懸を救ふの義としてある、釋氏要覽にも『行孝順者亦應奉盂蘭盆』とある樣に冥土に於ける亡靈の倒に懸けられたるが如き苦を救ふの意義であると解いてあるに見ても孝順の共有性に富む我國民の執行せねばならぬ年中行事の一つである事は言ふまでもない。

然し其何たるを辨へずして徒らに虛榮の競爭から此の盂蘭盆を繞つて實生活に即しない生活樣式を執つて平氣で歲月を送つて來た事に甚だしき矛盾があると考へねばならぬのである、先づ第一に盆禮と稱する金品の贈答や三日間に亙り店先きや墓參に松を焚くなどは其傳統的に人の眞似をするもので決して何等の意義を持つものでない、此等の改善方法に就ては隨分久しき問題となつて先覺者の間に叫ばれても大衆は一向顧みようともせずに何十年何百年かを過ぎし來たものである。

この有害無益とも見るべき年中行事をして改善に一大拍車をかけ店先きに松を焚く事は迎火の意味で十三日晚一回、墓參に焚く事は全廢して寺院に於て十三日午後の七時を期して一齊に施餓鬼會を執行すると云ふ事で此際各壇家の諸君が參列すればそれで回向の誠を致す上に不足がないと云ふ結論に到達して町役場と各寺院とか連名で各町民へ急告のビラを撒いたのである。

これ言ふまでもなく幾百年來の慣習に對して思ひ切つた改善の手を伸べた果斷であつて玆に時局下と云ふより時代の認識を高めた事實を發見するのである。

如斯の事は能く町村當局は口にするのを聞いたが寺院の住職自ら進んでこの擧に出でた事は竹村智運師の率ゆる法黨だけに其方法がキビ〳〵して指導の根本を摑む處に超越した力の存在して居る點を察知し得るのであつて吾人の常に敬意を表する所以である。

この舊習打開を切つかけに實際生活から眺めて更に第二段の改善策を講じ、眞の時代に目覺めた國民たるの先驅を以て任ずる底の先覺者たる立場の人の輩出せん事を、此機會に臨んで、町民各位に一言を寄與するものである。

（完）

もう一度暑さがブリ返しますと

小名濱測候所が語る

而し夏は峠を越した

きのふの立秋から今九日にかけ平地方は暑氣を拂つた秋風が立ち初め水銀柱もぐんと下つて正午の氣溫は七五・一度、前日より一四度低いといふ涼しさだ、例の[illegible]猛暑も、どうやら峠を越した模樣だが、それなら全く夏型天候が退却したかといふとさにあらず以下小名濱測候所さんで語る立秋の御挨拶だ

こんなに涼しい風が吹くのは北海道から九州まで不連續線があるためです、然し氣象の配置は七六一ミリの高氣壓が內地の南方に頑張つてゐるのですから純然たる夏型です、もう立秋ですから下り坂の夏型には違ひありませんが、不連續線がなくなれば、即ち二、三日後にはもう一度暑さがブリ返すでせう、稻作との關係ですか、それはむろん豐作型の天候だつたといつてよいでせう

短刀を引ツ下げ賭場に暴れ込む

新川端の暗がりを徘徊中に捕る

平署では八日夜新川端の暗がりを徘徊してゐた好間村行人坂無職津田春男（三四）を擧動不審で檢擧したが取調べの結果同人は今年六月三十日夜數名が車座となり札賭博開張中の久保町古物商安田吉之助（三六）方へ刄渡一尺餘の短刀を引さげて押入り〝親分の許しを受けないで開張するとは何事だ！〟と脅迫現金十圓をせしめて逃走したこと判明今九日は關係者全部次々と引致され取調べを受けてゐる

野崎市會議長を騙した男

株券を種にす

植田町字本町鷺征二に係る詐欺事件の公判は今九日平區で開廷菅田判事から檢事の求刑懲役六ケ月に對し懲役六ケ月但し執行猶豫三年間といふ寛大な判決を言渡されたが同人は平市會議長野崎滿藏氏から日本水素の株を買つてやるからと手附金名義で五十圓騙取したほか各地で株券詐欺や無錢飲食を働いたものである

×××××××××××××

脇腹を蹴つたのが女房死の原因

豫審で有罪と決定

平市田町五三青物商佐藤唯一（四三）に係る傷害致死事件は平支部の豫審に附され三澤判事係りで審理中であつたがこの程終結有罪と決定され近く公判開廷されることになつた同人は去月二十日午後六時頃妻のアキ（三七）さんと些細のことから喧嘩をはじめ突如足拂で顚倒させた揚句右脇腹を蹴飛したため急激な外傷性ショックを受け翌二十一日午後六時頃死亡したものである

ラヂオ

今晚の部

▽後六、〇〇　子供の時間　物語「マルコポーロの探檢」志水辰三郎外
▽後六、二五　講演「戰時下ベルリンの見聞」陸軍航空兵中佐安達堅造
▽後七、二〇　鄉土に寄する言葉（錄音）大日本青年團總務部長熊谷辰治郎
▽後七、三〇　國民歌謠「隣組」（獨唱）中野忠晴（合唱）日本放送合唱團（伴奏）東京放送室內樂團
▽後七、四〇　講演（中支より）
▽後八、〇〇　歌謠曲一、（イ）月下の步哨（ロ）夜のしらべ（ハ）父なきあと　松島詩子　二、イ燃ゆる大空（ロ）千里の潮風（ハ）日本の舟唄　霧島昇　三、合唱興亞行進曲　コロンビア男聲合唱團（伴奏）東京放送管絃樂團（指揮）久岡幸一郎
▽後八、二〇　ラヂオドラマ「若き宣撫官の日記」大日方傳、伊達里子外數名
▽後九、三〇　十分間演藝

明日の部

▽前五、三〇　吹奏樂…陸軍戶山學校軍樂生徒
▽前六、三〇　夏季獨逸語講座　關口存男
▽前七、〇一　物語（支那近代史）「政治外交の卷」（九）出石誠彥
▽前七、二〇　音樂レコード
▽前八、〇五　小學生の時間
▽前九、四五　幼兒の時間「うたのおけいこ」ひよこ指導武田愛子
▽前一〇、〇〇　衞生メモ　飲み水の衞生　醫學博士大島正德
▽前一〇、二〇　家庭の時間
▽後〇、〇五　土曜コンサート　眞田千鶴子、大谷例子
▽後〇、五〇　都市對抗野球試合實況：後樂園スタヂアムより中繼
▽後二、一五　灼熱の職場
▽後三、〇〇　紀元二千六百年奉祝（第十一回）明治神宮國民體育大會（實）
▽後六、〇〇　子供の時間　對話「天野雉彥」ダン道子
▽後六、一七　音のなぞ
▽後七、二〇　鄉土に寄する言葉（錄音）作家石坂洋次郎
▽後七、三〇　國民歌謠「隣組」（獨唱）中野忠晴
▽後七、四〇　琵琶「瀧の口」山口錦堂
▽後八、〇〇　傷病將士慰問の夕：月島陸軍病院より中繼
▽後九、〇〇　義太夫「奧州安達原」豐竹紋太夫　鶴澤清六

亡父千代吉新盆に相當り候處甚だ勝手間敷候得共時局柄提灯其他供物の儀一切御辭退申上候間不惡御諒承願上候

昭和十五年八月

平市田町
鈴木信雄

亡妣瑤光院新盆に相當り候處時局柄提灯其他供物等の儀は乍勝手一切固く御辭退申上候間不惡御諒承願上候

昭和十五年八月

平市白銀町
齋藤角治
平市田町
齋藤千代

信光院入盆の處甚だ勝手がま敷候得共時節から提灯其他供物の儀御辭退申上度此段謹告候也

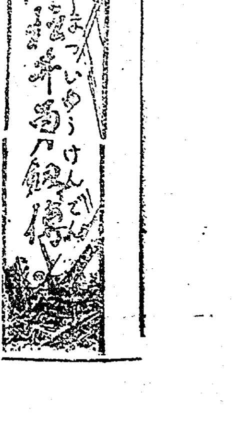
昭和十五年八月

平市四丁目
三國屋
篠塚平八郎

昭覺院新盆に相當り候へ共提灯其他供物の儀は時節から一切御辭退申上度不惡御諒承願上候

昭和十五年八月

平市四丁目（萬屋）
鈴木與一



第百四十六回

乾殺（ほしころ）された時（とき）

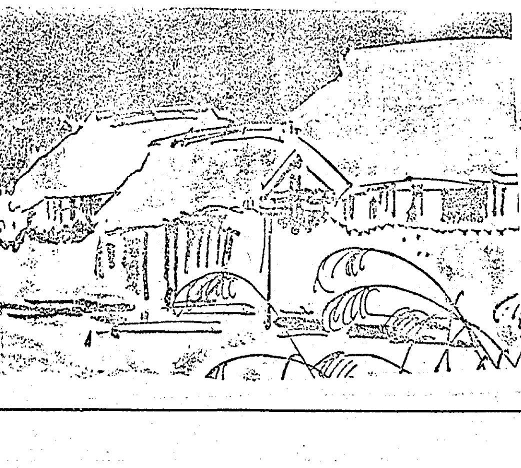
そこで[illegible]

「[illegible]の其の方の[illegible]を[illegible]する[illegible]院とやら[illegible]村[illegible]へ[illegible]さんとするものな[illegible]は[illegible]院へ[illegible]くても[illegible]の[illegible]ないやうになつて[illegible]てると云ふからは[illegible]のが人間の[illegible]して[illegible]るものにあるまいか。どうだ」

「ヘエどんな[illegible]であるか、いやもう[illegible]ろしいことで」

「[illegible]此方が[illegible]院へ案內いたさぬか」

「そんな[illegible]ろしい[illegible]へ何でお出でなさるだね」



「[illegible]」

「お[illegible]年が若いが[illegible]い人だ。今も話した通り[illegible]力のある[illegible]な[illegible]い[illegible]が[illegible]人となく[illegible]かけなせえましたが一人として[illegible]つてこさらつしやつた方はねえんだ、[illegible]院へ行つたが[illegible]、とても[illegible]足に生きて[illegible]れねんだから[illegible]止めなせえ[illegible]年[illegible]村の祭に來た[illegible]の先生からそう云はつしやつた、[illegible]は先きに[illegible]ずつてことがあるつて……」

「いや其方の申す所道理ではあるが、[illegible]は知らず此方[illegible]ず[illegible]を退[illegible]して見せる。一人[illegible]の[illegible]め[illegible]を吸ひ取られて命を落すとも此方か[illegible]んだ[illegible]であるから[illegible]して[illegible]とも思[illegible]其の[illegible]院とやらへ案內してもらひたい」

「お[illegible]に[illegible]されたからつて[illegible]で仕方がねえと[illegible]めらされなさるか知られえが、村の[illegible]が[illegible]で[illegible]しますだよ、死[illegible]の取り片付けだの何だのつて[illegible]に手數がかかるで、[illegible]」

「いや此方は大丈夫だ。[illegible]を[illegible]する[illegible]を[illegible]してゐるから[illegible]の[illegible]めに命を落とす[illegible]な事はない」

「どなたも[illegible]ますが、それが[illegible]になると[illegible]になつてゐらつしやるので……」

「それ[illegible]までに其の方が[illegible]いたすならば[illegible]ではあるが[illegible]として[illegible]に七十[illegible]はかりけさせてゐる、[illegible]の[illegible]め落[illegible]いたす[illegible]なれば此の[illegible]子で死[illegible]は[illegible]るべくば[illegible]つてくれ、[illegible]は其方へ[illegible]にすから」

「ヘエ、すると日[illegible]は七十[illegible]お[illegible]ちなすつてゐらつしやるで[illegible]乾し殺されたな[illegible]其の金で[illegible]ひてくれと[illegible]はつしやるので……」

「さうだ」

「どんな文[illegible]をしたつて[illegible]もあれば[illegible]だ、すると六十[illegible]あんだ、それを私に[illegible]れる、六十九[illegible]なんて大金はお[illegible]の[illegible]でも[illegible]まるものでゝねえ、それを[illegible]つたらこんな[illegible]て[illegible]お名主[illegible]の[illegible]へでかい[illegible]の五六丁も[illegible]ひ込んで[illegible]の身分、どうも[illegible]ら[illegible]ムえます」

「まて〳〵まだやるのではない[illegible]の[illegible]め[illegible]を落した[illegible]にやるのだ」

「ヘエそりや分つてゐます。なにより二[illegible]と[illegible]れるものでねえんで[illegible]乾し殺されるに[illegible]てゐます」

「[illegible]いや[illegible]よく[illegible]つてくれた、[illegible]らば今夕より[illegible]院へ案內して呉れよ」

「[illegible]畏まりました」

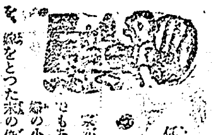
[illegible]は七十[illegible]の金子を[illegible]いて[illegible]知した。やがて夜に入るのを待つて[illegible]りまする中に早くも日はトップリ暮れ果てた。

「[illegible]どうやら日が[illegible]た[illegible]である」

「ヘエ[illegible]した[illegible]で」

「どうやらこれから[illegible]けてはどんなものであらうな」

「そろ〳〵[illegible]けますから、チョックラお待ち下せえまし。[illegible]を[illegible]ますから……」



働くことを樂しむ

家が不足の時にもあり、老夫婦の小さな借家を、娘をとつた家の倅にゆづつて老夫婦そろつておいてくれる家へ働きにでたいといふことであつた。「世帯をもつてる倅が三人もあるのに今さら老夫婦が外へ働きにでる事もないでせう一口に隱居といつても樂なものでもないし、他人の家で氣兼ねた暮しをするよりも、倅の家でのんきにしてゐたらよいでせう。」

とたのまれた人は、若夫婦との同居に何か氣をかねてゐるのだぐらゐに思つた。

年寄夫婦が倅の家にもどらないで働きにでては、倅たちが何か親を邪險扱ひにしてでもゐるやうに見られていやだから、やめてくれと反對されましたが、今どきそんな世間體の思惑なんぞ氣にかけてはゐられません。いくら自分等が苦勞して育てた倅だからといつて小遣錢をもらつて遊んでをるなんてまだ六十臺の者が、今の御時世にとんでもないことです。自分等が働いたお金で、孫たちへおもちやの一つも買つてやるのでなけりや、爺婆の値打はありやしません。病氣といふ時か、働けなくなるまでは、年相應に夫婦が助け合つて、働いてゆくのがあたりまへだと思つてをります」

それから一ヶ月後、その元氣な老夫婦は慰安旅行にでも出かけるやうに、たのしさうに晴々とした顔で、倅たち夫婦や孫たちに見送られて、某温泉地の旅館の帳場をするのに出發して行つた

…戰時下ドイツの家庭生活…

丈夫な子を生む健康美

衣服も實用第一

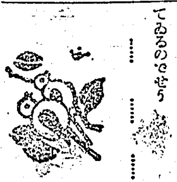
お化粧を忘れた婦人

◇…ドイツの國力を充實させるには、身心共に健全な國民を養成しなければならないといふ旗印のもとに、母の丈夫な子供を産むことが、ドイツ婦人の大切な役目とされ、またそれが國への御奉公とされてゐます、それにはまづ母となる人の健康が絶對に必要であるところから、婦人のスポーツが非常に奬勵されました、ですからドイツ婦人はスキーもやればスケートもやる、また夏には泳ぎにもゆけば、登山もするといふ工合にスポーツはなか／＼さかんなものです、殊にドイツの秋と冬は曇りがちで日の目を見ることが少いので日光のあたる春、夏の日曜には戸外に出て陽を滿喫してをります、從つてドイツ婦人は男のやうな體格を持つてをり、またこの健康美の女性こそドイツ婦人の美とされてゐるほどです

◇…ドイツ婦人が化粧をしないといふことはあまりにも有名な話ですが、實際街を歩いても化粧をしてゐる婦人は一人も見受けません、おしやれに浮身をやつすなどはドイツ婦人の恥とされてゐます、フランスにゐた人などはドイツにきて飾らないドイツ婦人を輕蔑するやうですが、その質素なところがドイツのほこりであります。第一次歐洲大戰で敗戰國のみじめさをなめつくした彼女達の頭には、ただ國を興すことより外には何もなく、まして化粧など考へてゐる暇はないのでせう

◇…衣服もごくそまつなものを着てゐます、戰時下になつて身につける衣服や靴下などの日用品は一年中で百點以下に統制されましたが、それに甘んじて非常に儉約して使つてゐます。もと／＼ドイツ人は清潔ずきな國民ですから、そまつなものでもよく洗濯してきれいにして着てゐます。戰時になつてから出る婦人雜誌などをみても新しいモードは全然なく、而しものがのせてあるのをみてもドイツ婦人がいかに實用を好み、質素であるかわかるではありませんか

◇…ヒトラーはいつもドイツ婦人に「家庭に歸れ」といつてゐますが、これが結局婦人のモットーとされてゐるものでせう。ですから若い娘さんはどし／＼街頭に出て働いてゐますが結婚後には退職して家にはいるのです。そして結婚費用は自分で稼いでお嫁に行くことが習慣になつてゐます。結婚式はごく質素に教會で式をあげ、親しい者だけを呼んでお茶で披露する程度です。とに角家に歸るといふことが婦人に質素な生活を教へてゐるのでせう



女と山羊

數の世界

ソ聯の人口は一億七千四十七萬人（一九三九年調査）

桐の家具がいたんだら

桐のたんすや火鉢、その他桐のやうなやはらかい材料でつくつた家具を傷つけたときは、傷の箇所に水をふくませて綿所にあて、その上に布をあてゝ上から熱ごてをかけますと凹んだところが浮きあがつてきます。なほ桐材の家具を雜巾でゴシ／＼ふくと、たまつてゐるほこりが木の目にしみ込んでしまひますから、よく絞つたやはらかい布（さらしでも綿ネルでもよい）で輕くふくやうにしなければなりません

疲勞を抹殺！

目に見えて精力が衰へ始める
仕事にすぐ疲れ倦怠を覺える
それは過勞の第一歩です！

過勞は流感や各種呼吸器病の誘因となりますから最新精力強化ホルモン劑のベラン錠を一日二錠內服し、疲勞を回復させ新陳代謝を旺盛にし、體力強化を計つて下さい。

二〇錠　三圓五〇錢・一〇〇錠　十五圓

☆體力強化ホルモン
ベラン錠

神經衰弱症
活動力減退
疲勞衰弱
ヒル病
耳鳴肩凝り
徹夜の前後

ベラン本舗
興亞商事藥品部
東京市本郷區湯島三丁目
電話小石川三二七三番
振替東京一二一三〇七番

◇◇夏◇家◇具◇は◇◇

籐に代つて竹や柳の進出

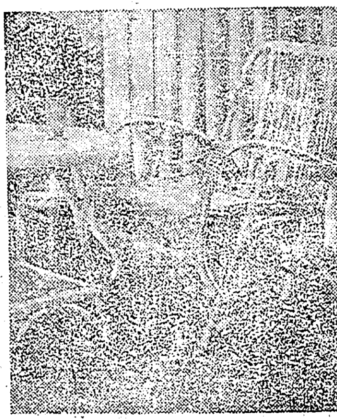
夏の家具は涼味を漂はす點で何といつても籐イスでせう、その材料の籐が今年は輸入統制で入荷が甚だしく少くなくつて、代用品として登場したのは日本人に馴染の深い竹を始め、柳や紙を主材とするソイバーです、竹は主として普通に用ゐられてをり、細いしの竹が籐と共に表面に使用されてゐるのですが從來の籐とちがつた味で夏の氣分を出してをります、竹の骨は彈力の點で籐よりもいさゝか弱いかもしれませんが、中々丈夫なものです

この新しい籐イスは夏家具として立派なものですが、といつてあつい眞夏の日光に直射することは避けねばなりません、むしろ干からびないやうに時折濕潤をあたへることが必要です、その意味から[illegible]の籐が涼風や夜露にあてた方が籐のためになります、そしてその籐の乾いてゐる日中によくその網目のほこりをとることがよいでせう、それにはやわらかい毛のハケで拭ふことで、夏の籐イスは皮籐が主ですから、皮に脂肪分があるので、それでよくおちるのです

次にシートの網目がゆるみました時には、熱い湯を吹きかければその張りが強くしつかりします

柳は籐よりも折れやすいものですから、注意して取扱はねばいけません

總して家具はかるくとも片手でもつことは禁物で、どんな場合でも兩手でもち上げることです、さうすればおとしたり打つけたりすることが少いので、傷つけたり折つたりすることもないのです、一寸の注意が品物を長もちさせることになるのです



古奥うぐひす洗粉

美の顔素

化粧品店藥店小間物店百貨店にあります

●…日本女性美の第一要素の様な素肌は古いむかしから、貴婦人の方々が愛用された古奥うぐひす洗粉で丁寧にお磨きになるに限ります

古奥うぐひす洗粉は、色を白く肌を美しく、ナメラカに、キメを細かく、ツヤをよくします。お買ひ求めの節は粗惡類似品あり「渡邊の古奥うぐひす洗粉」に御注意下さい。

…定價　四十錢　六十錢　一圓廿錢　三圓五十錢
品切れの節は發賣元へ直接御註文下さい

發賣元　渡邊勘藏商店
東京市京橋區築地一ノ二〇
電話　京橋　六三二〇番
振替東京四七六四五番

巡査になる近道

[illegible]

東京麹町二ノ二十八　日本警察學會

遞信官吏受驗合格法

[illegible]

東京麹町二ノ二十八　東洋遞信學會

鐵道員になる獨習講義錄

安全＝成功早し

學費なくして小學卒業の力で一番早く成功を望まれる方は鐵道員となるがよい今六百名の鐵道手採用を發表さる。昇進の道は開かれ給與手當共優遇であり　ハガキで申込次第規則及受驗法內容代進呈す

東京麹町二ノ二十八　東洋鐵道學會

獨學速成　算術速成講義

[illegible]

東京麹町二ノ二十八　帝國算術教育會

○…頭髮の手入…

キハツ油やベンジンがなかつた為容易に手に入らないのでよごれをおとすのに困つてゐる家庭もあるでせう、その代用品に、アム[illegible]の水にのばしたものもよいでせう、これは水分の一のアルコールをまぜれば[illegible]ます

暴風地帶

櫻井北道作

第五十四回

零れし珠（三）

「婆さんや、お前には何にも知らないだらうが、どうも[illegible]の關係はとの[illegible]りの不思議なんだらう、すつかり惚ひ込んでね」

そんな風な話しから、だん／＼にして、母の[illegible]から[illegible]に家全[illegible]を引出させ[illegible]とするのだつた。

もと／＼それが目當で母と結婚させたのだから、お[illegible]がかう云つて來るのに不思議はなかつた。

[illegible]はおとなしくしてはゐたものの、から早く、すけ／＼に持ちかけられて來ると、悲しかつた。

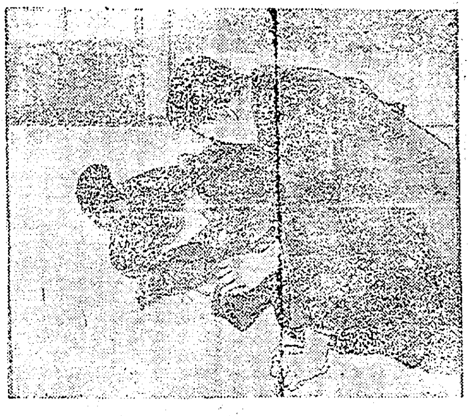
もと／＼愛のない[illegible]ではあつたとは云へ、[illegible]ゐるとでも思つて[illegible]のだね。それならそれでよう[illegible]いますよ。私には私の考へがありますから」

「けれどお母さま。それはあんまり……」

「何があんまりだね。この家がつぶれるか潰すかの瀬戸際ではありませんか。それだのにお前は家はどうなつてもよいといふのですか」

「いゝえ、お母さま」

「もう、よろしい、私には私の[illegible]節があります。さういふ[illegible]のわからぬ娘だとは、今日が日まで思つては居りませんだ。その上は兄樣に頼んでお前のまちがつた心を直して貰ふばかりぢや」



[illegible]と働いて[illegible]夫婦の[illegible]、[illegible]に夫は只、只、澄子に[illegible]切つてゐる。彼女を心から愛して居る。それだけに彼女は時折もつたいないと思ふほどよくしてくれる。

愛しては夫に從へて、[illegible]一つ感じることの出來なかつた彼女にしても、彼女はこの點、と[illegible]して[illegible]る[illegible]を抱いて來てゐたのだつた。

よし、それは自分にとつては[illegible]ある母の命令であるにしろ、そんな理不盡な申出でをやす／＼と聞くことは出來なかつた。

「けれどもお母樣、夫もあゝして一生のものになり切つてゐるのですもの、今更[illegible]へそんなことが云つてけげやう筈がないと思ひますわ」

澄子はさう云つてやつぱり[illegible]つた。

それが非常にお母の怒りを買つたのだつた。

「おや？　この子は親の命令に背くのだね。よし／＼わかつた。この婆[illegible]

「ねえ、お母さま。そんなことはなさらないで……」

さう云つて縋すがる澄子の手を振つて、お母は家を飛び出して行つた。

澄子は餘りの理不盡にそのまゝそこへ泣き伏してしまつた。

「どうしたの澄子、またお母さまとか」

氣づかはしさうに聲をかけたのは夫の[illegible]だつた。

何ものをもすがるもののない今、夫の親切が身にこたへて嬉しかつた。

「どうした？　澄子、又お母さまが」

さう云つて夫から優しい言葉をかけられると、澄子は胸が[illegible]みがこみ上げて來た。

彼女のおえつはだん／＼高くなつて行つた。

「どうしたの澄子、澄子、[illegible]の悲しいわけを話してくれ」

[illegible]……」

平第三小學校
同窓會總會

期日　八月十日零時半
會場　母校講堂
會費　廿五錢（當日持參のこと）
尚餘興として今般購入のトーキー披露あり

平第三小學校同窓會長

拜啓盛夏の候益々御清祥の段奉賀候
陳者同窓會定時總會を左記に依り開催候に付萬障御繰合せ御出席相成度此段及御案內申上候　敬具

一、期日　八月十日午後一時
一、會場　母校會議室
一、議案　イ、庶務會計報告の件　ロ、役員改選の件　ハ、其の他

昭和十五年八月
福島縣立磐城中學校
同窓會長　淸水廣政

會員各位

お盆用名入れ提灯

▽註文は是非!!!
スガノヤ提灯店へ
平・四　電九五番

▽戰歿勇士英靈への御提灯は特に御相談に應じます

敬神崇祖！　日本精神御靈前に
〃お盆提灯〃供へて祖先を敬ひませう

お盆提灯

崇祖・日本精神

平市二丁目
フクタヤ

コーライト

木炭、豆炭、コークスの代用燃料
三菱コーライト
を御奬め申上ます

特長……火力強く、火持ちよく、木炭の半値
御使用は御家庭用のコンロ、火鉢、鍛冶用
一俵（五〇キロ）から配達致します
――どうぞ御註文下さい――

昭和十五年六月
平市田町二
阿部石炭商店
電話一三七番

夏物は！
是非當店から
（在庫豊富）

保險は
帝國へ!!

帝國生命
平中央代理店
◎御報次第社員參上

貝やき
と〃美味しい〃
みりん・ぼし

『鰹節製造販賣』

◎女車掌
（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、詮選ス

平市二丁目
三井タクシー
電六八五番

花柳病科外科
木村外科醫院
平市南町（警察通り角）電話三〇九番

洋酒と喫茶
麗人のサービス
氣分本位の店
タヒラ・ギンザ通り
グリル　バッカス
電七〇二番

玉屋洋品店
平　田町通　電話六五六番

志賀盛榮商店
平市四丁目　（電話二一三番）
日本生命平代理店

祖先の靈を祀る
お盆が近づきました

佛壇、塗位牌、佛具類
一式豐富に取揃へました
御盆の御用意は是非當店へ

平市三丁目
丸ほん商店
【電話三五九番】

內臓外科
整形外科
レントゲン科

松村外科

醫學博士　松村亨
平市南町松村外科醫院部

メガネ專門の店

メガネは絶對信用ある當店に
先づ御相談下さい…………

玉屋
平市本町二丁目

耳鼻咽喉科專門
鈴木醫院
醫學士　鈴木正男
平市田町（藤田女學校前）
電話六一二三番